

### 公募課題 1 幼稚園教育に係る研究課題

幼稚園教育要領第 2 章に示す領域のねらいの実現状況及び課題等を把握し、その趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

◆ 研究期間：1 年間

◆ 実践研究の背景

- 幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習である。幼稚園教育においては、その遊びを通しての指導を中心として幼稚園教育要領の第 2 章に示す領域のねらいが総合的に達成されるようにすることが重要である。
- 幼稚園教育は義務教育及びその後の教育の基礎を培うものである。幼児の遊びの中の学びの芽生えを理解し、小学校教育への見通しをもってその芽を引き伸ばすために必要な活動を促す適当な環境を計画的に設定することが必要である。
- こうした幼稚園教育の基本をしっかりと踏まえた上で行われる実践を通して、幼稚園教育要領のねらいの実現状況等を把握することは、今後の教育課程や指導方法等への課題の把握やその改善へとつながるものである。

◆ 実践研究の目的

本研究では、幼稚園教育要領の領域に示されたねらいの実現状況、課題等を把握するために調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。

◆ 実践研究の内容等

幼稚園教育要領の第 2 章に示す 5 つの領域のねらいの実現状況を把握するため、5 歳児の抽出幼児の観察を継続して行い、その記録を通して下記の 5 つの領域の実現状況を分析するとともに、今後の課題を明らかにする。また、実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善へとつなぐ。

- 領域「健康」 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。
- 領域「人間関係」 他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。
- 領域「環境」 周囲の環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
- 領域「言葉」 経験したことや考えたことなどを自分なりに言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
- 領域「表現」 感じたことや自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

## 公募課題2 各教科等に係る研究課題

【小学校】

新学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 研究期間：1年間
- ◆ 実践研究の背景
  - 新学習指導要領実施3年を経て、各教科等での指導状況及び全国学力・学習状況調査結果から、一定の領域等の内容について、一層の指導と評価の工夫改善による児童の確実な理解、能力の定着が求められている。
  - また、新学習指導要領の実施状況に関して、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について、その学習状況を把握し、今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的、内容等
 

本研究では、各教科等において、児童の確実な理解、定着が望まれる内容に係る教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資する。さらに、ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため、これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。
- ◆ 留意点
  - 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①、②・・・と複数の内容が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
  - 平成25年度に研究指定校として委嘱されている学校が、平成25年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成26年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

国語	◇下記の①又は②のいずれか一つを選択すること
	①教育課程全体に係る課題（教育課程調査官担当） <ul style="list-style-type: none"> <li>○下記の(ア)(イ)のいずれか一つ又は両方に取り組むものとする             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア)単元を貫く言語活動を位置付けた「C読むこと」の授業づくりにおいて、次の一つ又は複数を取り上げた研究                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価規準の設定を工夫した学習評価の改善</li> <li>・単元の展開部（いわゆる「第二次」）の指導の在り方の工夫改善</li> <li>・本や資料を目的に応じて選んで読む能力を育む指導の在り方の工夫改善</li> </ul> </li> <li>(イ)子供たちが単元を貫く言語活動に取り組む中で、目的意識や必然性をもって交流するための指導の在り方に関する調査研究</li> </ul> </li> </ul>

	<p>②全国学力・学習状況調査の活用等に係る課題（学力調査官担当）</p> <p>○全国学力・学習状況調査の活用を図る指導方法等の研究（下記の(ア)～(イ)から一つ又は複数を選択すること）</p> <p>(ア)全国学力・学習状況調査の調査問題そのものや授業アイデア例を実際の授業に位置付けた単元構想及び単元の指導過程や指導方法等の研究</p> <p>(イ)B問題に係る課題を基にし、習得したことを活用して思考力や判断力、表現力を高める単元構想及び単元の指導過程や指導方法等の研究（例：記述力）</p>
社 会	<p>①学習の見通しを立てる学習活動に注目し、単元（小単元）あるいは1時間の授業において、学習問題や予想、学習計画を考える場面を中心に、問題解決的な学習の充実に向けた指導方法の具体策を研究する。</p> <p>②討論的な活動を通して、思考力、判断力、表現力を育てる指導方法について研究する。いわゆる社会問題ではなく、学習指導要領の各学年の目標や内容を踏まえた上で、子供の問題解決的な学習に位置付く学習展開の工夫と、これからのよりよい社会を考える内容の教材の開発を併せて研究する。</p>
算 数	<p>○新学習指導要領の実施状況や全国学力・学習状況調査の結果から、児童の理解に課題があり、指導の工夫改善が求められる下記の内容についての指導方法等の研究（下記の(ア)～(エ)から一つ又は複数を選択すること）</p> <p>(ア)「筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりする」ことができるための、児童の実態に合わせた効果的な指導方法とその評価方法の研究</p> <p>(イ)各学年において、分数の意味の理解を深めていくための効果的な指導方法等の研究</p> <p>(ウ)乗法や除法の意味を理解するための系統的な指導計画及び効果的な指導方法等の研究</p> <p>(エ)割合（単位量当たりの大きさ・百分率）の意味を理解するための系統的な指導計画及び効果的な指導計画等の工夫改善についての研究</p>
理 科	<p>◇下記の①又は②のいずれか一つを選択すること</p> <p>①教育課程全体に係る課題（下記の(ア)又は(イ)から一つ選択すること）</p> <p>(ア)問題解決の力を育てる指導法等の研究</p> <p>(イ)実生活との関連を図る指導法等の研究</p> <p>②全国学力・学習状況調査等に係る課題（下記の(ウ)又は(エ)から一つ選択すること）</p> <p>(ウ)観察・実験の結果から考察し結論を導くための効果的な指導方法の研究</p> <p>(エ)観察・実験の計画及び実施における効果的な指導方法の研究</p>
生 活	<p>○思考を促す学習活動や気付きを表出する表現活動を行い、気付きの質を高め児童の意欲の向上につながる指導計画及び指導方法等の研究</p>
音 楽	<p>○〔共通事項〕を支えとして、「A 表現」領域（歌唱、器楽、音楽づくりの分野）と「B 鑑賞」領域の関連を図り、思いや意図をもって歌ったり楽器を演奏したり音楽をつくらしたりする力、音楽を全体にわたって味わって聴く力を効果的に育成するための指導方法等の研究</p>
図 画 工 作	<p>①表現及び鑑賞の活動を通して、育成する資質や能力を明確にした学習指導と学習評価の実践研究</p> <p>②「A 表現（1）」における学習指導と、指導方法等の改善を図る実践研究</p>

<p>家 庭</p>	<p>◇下記の①～③について，①～③のいずれか一つ又は②と③を選択すること</p> <p>①内容「A家庭生活と家族」の(1)のアにおいて，「A家庭生活と家族」から「D身近な消費生活と環境」の各内容と関連を図り，自分と家族のつながりや成長した自分を自覚するための指導と評価の研究開発</p> <p>②内容「B日常の食事と調理の基礎」において，(2)栄養を考えた食事，(3)調理の基礎に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，日常生活で活用する能力を育成するための指導と評価の研究開発</p> <p>③内容「C快適な衣服とすまい」において，(3)生活に役立つ物の製作に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，日常生活で活用する能力を育成するための指導と評価の研究開発</p>
<p>体 育</p>	<p>◇運動領域と保健領域の両方に取り組むものとする</p> <p><b>【運動領域】</b></p> <p>○2年ごとのまとめりとして示されたA～Fの各領域の指導内容の(3)「思考・判断」に関する内容について，それまでに身に付けた知識や技能をもとに，思考・判断（表現）して，児童自らが課題解決を図る学習過程の工夫改善についての研究（6領域のうち，いずれかの領域を選定し，6年間の発達を踏まえた研究を進めること。その際，選定した領域について2年間ごとの指導計画を立てること）</p> <p><b>【保健領域】</b></p> <p>○身近な生活における健康課題を把握し，その解決を目指して具体的に考え，判断し，それらを表現する力の育成を目指して，「知識を活用する学習活動を取り入れる指導方法の工夫」のための具体的な指導方法等の研究</p> <p>（下記の(ア)～(エ)から一つ又は複数を選択すること）</p> <p>(ア)第3学年の「(1)毎日の生活と健康」</p> <p>(イ)第4学年の「(2)育ちゆく体とわたし」</p> <p>(ウ)第5学年の「(1)心の健康」</p> <p>(エ)第6学年の「(3)病気の予防」</p>
<p>道 徳</p>	<p>○新学習指導要領において，各教科等においても特質に応じた適切な道徳教育を行うこと，道徳教育の全体計画に各教科等で行う道徳教育について指導の内容及び時期を示すことになったことを踏まえ，自校の道徳教育の重点目標に基づく各教科等の特質を生かした道徳教育，それらを補充，深化，統合する道徳の時間の指導方法等の研究</p> <p>（下記の(ア)～(ウ)を全て踏まえた具体的な研究課題を設定すること）</p> <p>(ア)学校の道徳教育の重点目標に基づく全体計画の作成と実施に関わる工夫</p> <p>(イ)各教科等の特質を生かした道徳教育の工夫</p> <p>(ウ)各教科等の道徳教育を補充，深化，統合する道徳の時間の指導の工夫</p>

外国語活動	<p>○文部科学省が実施した「外国語活動実施状況調査」から、コミュニケーション活動の設定、小中連携が大きな課題であると考えられる。以下の①又は②のいずれか一つを選択し、研究テーマとすること。</p> <p>①子供が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するための指導のあり方</p> <p>②中学校へのスムーズな接続を意識した外国語活動の指導のあり方</p>
総合的な学習の時間	<p>○協同的に学び合うことで、探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）の充実を実現する指導計画及び指導方法等の研究</p>
特別活動	<p>○新学習指導要領に「よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動，人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫すること。」が新たに示されたことを踏まえ，これらに関する思考力，判断力，実践力（表現力と実行力）を育成するための指導方法やいじめの等の未然防止につながる指導方法などの研究開発</p> <p>① 合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫</p> <p>② 自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる指導の工夫</p> <p>③ いじめの未然防止等につながる集団(活動)育成のための指導の工夫</p>

【中学校】

新学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 研究期間：1年間
- ◆ 実践研究の背景
  - 新学習指導要領実施2年を経て、各教科等での指導状況及び全国学力・学習状況調査結果から、一定の領域等の内容について、一層の指導と評価の工夫改善による生徒の確実な理解、能力の定着が求められている。
  - また、新学習指導要領の実施状況に関して、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について、その学習状況を把握し、今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的、内容等
 

本研究では、各教科等において、生徒の確実な理解、定着が望まれる内容に係る教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資する。さらに、ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため、これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。
- ◆ 留意点
  - 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①、②・・・と複数の内容が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
  - 平成25年度に研究指定校として委嘱されている学校が、平成25年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成26年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

国語	①「C 読むこと」領域において、課題解決的な言語活動を通して、生徒が主体的に学習に取り組みながら思考・判断・表現する単元の研究 ②言語活動を通じた指導において、期待される言語活動の姿を想定して評価規準を設定し、具体的な活動状況に即して適切な評価を行う方法の研究 ③全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた、指導方法等の工夫改善に関する研究
社会	○思考を促す問いの工夫改善等に関する研究
数学	◇下記の①又は②のいずれか一つを選択すること ①生徒の数学的活動への取組を促し、思考力・判断力・表現力等の育成を図るための具体的な授業のあり方と評価方法等の実践研究 ②全国学力・学習状況調査の記述式問題の分析に基づき、知識・技能などを実生活の様々な場面で活用する力を育成するための指導方法等の研究

理 科	<p>◇下記の①又は②のいずれか一つを選択すること</p> <p>①科学的な思考力・表現力を高める研究</p> <p>科学的な思考力・表現力を高めるために、「問題を見いだし観察，実験を計画する学習活動，観察，実験の結果を分析し解釈する学習活動，科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動」等の学習活動を取り入れた単元を構成して，生徒を主体的にする教材の開発や単元の構成に工夫を加えることの効果について研究する。</p> <p>②全国学力・学習状況調査において，課題があり指導の工夫改善が求められる下記の内容についての指導方法等の研究</p> <p>(下記の(ア)(イ)から一つまたは両方を選択すること)</p> <p>(ア)「問題を見いだし観察・実験を計画する学習活動」で，特に観察・実験において独立変数や条件を意識した学習活動の指導方法等の研究</p> <p>(イ)「観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動」で，特に観察・実験における量的な関係について意識した学習活動の指導方法等の研究</p>
音 楽	<p>○音楽的な感受を支えとして，「A 表現」領域と「B 鑑賞」領域の関連を図り，音楽の特性に即した思考力・判断力・表現力を育成する主体的・創造的な学習を実現する指導方法等の研究（下記の(ア)又は(イ)に該当するもの）</p> <p>(ア)「A 表現」領域(3)創作の学習を含むもの</p> <p>(イ)我が国の伝統音楽を学習素材として取り扱うもの</p>
美 術	<p>○美術科において育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にし，「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図ることで，生徒の思考力，判断力，表現力等を育成する指導方法等の研究</p> <p>(下記の(ア)(イ)の一つ又は両方を踏まえて，具体的な研究課題を設定すること)</p> <p>(ア)・「A表現」(1)(3)「感じ取ったことや考えたことの表現」において「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図り，生徒が主体的に主題を生みだし，それらを基に創造的に構想し表現する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「B鑑賞」(1)「美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞」において自分の見方や感じ方を大切にして対象を鑑賞し，自分の中に新しい価値をつくりだしたり美術文化についての理解を深めたりする活動</li> </ul> <p>(イ)・「A表現」(2)(3)「目的や機能の表現」において「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図り，生徒が主体的に他者や社会などの客観的な視点に立ち創造的に発想や構想し表現する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「B鑑賞」(1)「美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞」において自分の見方や感じ方を大切にして対象を鑑賞し，自分の中に新しい価値をつくりだしたり美術文化についての理解を深めたりする活動</li> </ul>

保 健 体 育	<p>◇体育分野と保健分野の両方に取り組むものとする</p> <p><b>【体育分野】</b></p> <p>○今回の中学校学習指導要領保健体育の改訂の重点である指導内容の明確化（中学校学習指導要領解説保健体育編 p.9）を踏まえ、指導が難しいとされる下記の①②についての研究</p> <p>（下記の①②のいずれかを選択し、各校で領域を設定すること）</p> <p>①A～Hの各領域の指導内容の(1)技能，(2)態度，(3)知識，思考・判断の学習をバランスよく行う指導計画や指導方法等の工夫改善についての研究</p> <p>②運動を合理的に実践するため，運動の技能や知識を活用するなどの思考力・判断力を育成するための指導や評価方法等の工夫改善についての研究</p> <p><b>【保健分野】</b></p> <p>○個人生活における健康課題を把握し，その解決を目指して具体的に考え，判断し，それらを表現する力の育成を目指して，以下の単元における「知識を活用する学習活動を取り入れる指導方法の工夫」のための具体的な指導方法等の研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年の「(1)心身の機能の発達と心の健康」</li> <li>・第2学年の「(3)傷害の防止」</li> <li>・第3学年の「(4)健康な生活と疾病の予防」</li> </ul>
技 術 ・ 家 庭	<p>◇技術分野と家庭分野の両方又はいずれかの分野に取り組むものとする</p> <p><b>【技術分野】</b></p> <p>①技術分野の思考力・判断力・表現力等に該当する，「生活を工夫し創造する能力」の育成を，3年間を見通して計画的に育成するための方策と，育成状況の評価の在り方について</p> <p>②多様で高度な技術（technology）が身近な生活で利用されている中で，今後の社会で活用できる技術（technology）に関する重要な概念の明確化と，その習得を図る指導と評価の在り方について</p> <p><b>【家庭分野】</b></p> <p>◇下記の①～④について，①～③のいずれか一つ又は①と④，②と④，③と④を選択すること</p> <p>①内容「A家族・家庭と子どもの成長」(3)において，幼児と触れ合うなどの活動を通して，幼児への関心を高め，関わり方を工夫できるようにするための指導と評価の研究開発</p> <p>②内容「B食生活と自立」において，(2)日常食の献立と食品の選び方のア，イ，(3)日常食の調理と地域の食文化のア，イに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，日常生活で活用する能力を育成するための指導と評価の研究開発</p> <p>③内容「C衣生活・住生活と自立」において，(1)衣服の洗濯と手入れのウ，(3)衣生活と住生活などの工夫のアに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，日常生活で活用する能力を育成するための指導と評価の研究開発</p> <p>④家族・家庭や衣食住の内容に新たに設定した「生活の課題と実践」において，生活を工夫し創造する能力や実践的な態度を育成するための指導と評価の研究開発</p>



外国語	<p>○「読むこと」の領域において、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら内容を理解する能力を育成するための指導と評価に関する研究開発</p> <p>○「書くこと」の領域において、文と文の順序や相互の関連に注意を払いながら全体として一貫性のある文章を書く能力を育成するための指導と評価に関する研究開発</p>
道徳	<p>○新学習指導要領において、各教科等においても特質に応じた適切な道徳教育を行うこと、道徳教育の全体計画に各教科等で行う道徳教育について指導の内容及び時期を示すことになったことを踏まえ、自校の道徳教育の重点目標に基づく各教科等の特質を生かした道徳教育、それらを補充、深化、統合する道徳の時間の指導方法等の研究（下記の(ア)～(ウ)を全て踏まえた具体的な研究課題を設定すること）</p> <p>(ア)学校の道徳教育の重点目標に基づく全体計画の作成と実施に関わる工夫</p> <p>(イ)各教科等の特質を生かした道徳教育の工夫</p> <p>(ウ)各教科等の道徳教育を補充、深化、統合する道徳の時間の指導の工夫</p>
総合的な学習の時間	<p>○協同的に学び合うことで、探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）の充実を実現する指導計画及び指導方法等の研究</p>
特別活動	<p>①新学習指導要領に「よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動の充実」が新たに示されたことを踏まえ、思考力・判断力・実践力（表現力と実行力）を育む学級活動における話し合い活動の指導方法及び評価方法の工夫</p> <p>②共生社会の担い手として求められる社会に参画する態度や自治的能力を育む生徒会活動又は学校行事における集団活動の指導方法及び評価方法の工夫</p>

【高等学校（共通教科）】

新学習指導要領の実施を踏まえた教育課程の編成、指導方法等の工夫改善を中心とする生徒の学習意欲を向上させる授業づくりに関する実践研究

- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の背景
  - 新学習指導要領の実施に伴い、その趣旨を踏まえ、各教科等の指導において、生徒の学習意欲を向上させる授業の工夫改善と、関心・意欲・態度の高まり等を適切に評価することが必要である。
  - また、新学習指導要領の実施状況に関して、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について、その学習状況を把握し、今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的、内容等

本研究では、各教科等において、生徒の確実な理解、定着が望まれる内容に係る教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資する。さらに、ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため、これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。
- ◆ 留意点
  - 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①、②・・・と複数の内容が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
  - 平成25年度に研究指定校として委嘱されている学校が、平成25年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成26年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

国語	<p>◇次の①、②から一つ選び、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容についての研究に取り組むこと。応募に際しては、平成26年度、27年度に研究対象とする学年（年次）、科目をそれぞれ明記すること。なお、研究対象は、平成25年度以降、第1学年に入学した生徒とする。</p> <p>①「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の学習指導と学習評価の工夫改善 (必ず、両方を取り上げ、偏りがないようにすること。)</p> <p>②「読むこと」の学習指導と学習評価の工夫改善 (教材として、「国語総合」においては、近代以降の文章と古典の両方を取り上げ、偏りがないようにすること。古典（選択科目を含む）については、古文と漢文の両方を取り上げ、偏りがないようにすること。古典の教材には、古典に関連する近代以降の文章を含むこと。)</p> <p>※なお、以下の点は、①、②のいずれの研究においても必須とし、研究成果等の提出を随時求める場合があることに留意して応募すること。</p>
----	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の対象とした科目については、学習指導要領の各科目（「国語総合」の場合は当該領域）の指導事項（内容の(1)）の全てを研究対象として取り上げること</li> <li>・学習評価については、目標に準拠した、評価規準に基づく、観点別学習状況の評価を行い、評価を指導の改善に生かすことに取り組むこと。</li> <li>・教材として、多様な「表現メディア」（この語の定義については、学習指導要領解説国語編 p.27 を参照のこと。）を取り上げること。</li> <li>・各教科等と連携した、言語活動の充実に資する言語能力の育成に取り組むこと。</li> </ul>
地 理 歴 史	○世界史・日本史・地理関係科目の相互の連携を図り思考力を育む授業実践の研究
公 民	<p>○社会的事象に対する客観的で公正な見方や考え方を成長させ、人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めさせる手立てとして行われる課題追究的な学習に関する具体的な指導方法等の研究</p> <p>（下記の(ア)(イ)から一つ又は両方を選択すること）</p> <p>(ア)「現代社会」の内容「(2) 現代社会と人間としての在り方生き方」において、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際関係などの分野で「幸福、正義、公正」を用いて課題を考察させる指導方法等の研究</p> <p>(イ)「倫理」及び「政治・経済」において、各科目の内容に係る諸課題を主体的に考察させる指導方法等の研究</p>
数 学	○数学学習に対する関心や意欲を高め、さまざまな場面で知識や技能を活用して問題を解決できるようにするには、数学的活動を充実することが必要である。そのため、指導計画を工夫するとともに、生徒の実態を踏まえた課題の工夫、生徒の活動を促す指導の在り方などについて実践的な研究をする。
理 科	<p>◇下記の①又は②のいずれか一つを選択すること</p> <p>①基礎を付した科目の指導方法や教材開発</p> <p>基礎を付した科目（「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」）について、旧課程のⅠを付した科目との指導方法の違いを明確にし、生徒をより探究的に主体的に学習に向かわせるための教材開発を行う。</p> <p>1年目は、単元を絞って研究を進め、2年目は年間計画を見据えて研究を行う。</p> <p>※研究は、理科全体で行うのが望ましいが、例えば「物理基礎」1科目に限定したものでも可能とする。</p> <p>②中学校と高等学校の理科の指導方法等の接続を図る観点から、全国学力・学習状況調査（中学校理科）において、課題があった事項に関わる学習活動を踏まえた、高等学校における指導方法等の研究</p> <p>（下記の(ア)(イ)から一つ又は両方を選択すること）</p> <p>(ア)「観察・実験などの結果を分析し解釈して自らの考えを導き出す学習活動」で、科学的な概念や根拠に基づき自らの考えを導き、その考えを説明する学習活動を通して、科学を考え表現する楽しみや喜びを実感させ、自然事象への関心・意欲を高める指導方法等の研究</p> <p>(イ)「日常生活や社会の特定の場面において、理科に関する基礎的・基本的な知識や技能を活用する等、日常生活や社会との関連を重視した学習」を通して、科学を学ぶ意義や有用性を実感させ、自然事象への関心・意欲を高める指導方法等の研究</p>

保 健 体 育	<p>◇ 体育と保健の両方に取り組むものとする</p> <p><b>【体育】</b></p> <p>○「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する」ための指導方法等の工夫改善についての研究 (下記の①②のいずれかを選択し、各校で領域を設定すること)</p> <p>①A～H の各領域の指導内容の(1)技能, (2)態度, (3)知識, 思考・判断の学習をバランスよく行う指導計画や指導方法等の工夫改善についての研究</p> <p>②運動の楽しさや喜びを深く味わい, 学習に主体的に取り組めるようにするための指導方法等の工夫改善についての研究</p> <p><b>【保健】</b></p> <p>○個人及び社会生活における健康に関する課題を把握し, その解決を目指して総合的に考え, 判断し, それらを表現する力の育成を目指して, 以下の内容において学習意欲を高めるとともに「知識を活用する学習活動を取り入れた指導方法の工夫」のため指導方法等の研究開発 (以下の(1)～(3)から一つ又は複数選択すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (1) 現代社会と健康   イ 健康の保持増進と疾病の予防                                       オ 応急手当</li> <li>・ (2) 生涯を通じる健康   ア 生涯の各段階における健康                                       イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関                                       ウ 様々な保健活動や対策</li> <li>・ (3) 社会生活と健康   ウ 労働と健康</li> </ul>
音 楽	<p>○音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして, 音楽の特性に即した思考力・判断力・表現力を育成する主体的・創造的な音楽表現及び鑑賞の学習を実現する指導方法等の研究 ( 下記の(ア)～(ウ)のいずれかに該当するもの)</p> <p>(ア)「音楽Ⅰ」において創作分野の学習を含むもの</p> <p>(イ)「音楽Ⅰ」において我が国の伝統音楽を学習素材として取り扱うもの</p> <p>(ウ)専門学科等(総合学科や普通科のコース等を含む)において, 「演奏研究」の趣旨を生かした学習指導の研究を含むもの</p>
美 術	<p>①美術Ⅰにおいて, 育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にし, 「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図ることで, 生徒の思考力, 判断力, 表現力等を育成する指導方法等の研究 (下記の(ア)(イ)を踏まえて, 具体的な研究課題を設定すること)</p> <p>(ア)「A表現」において生徒が主体的に主題を生成し創造的な構想を練り, 意図に応じて創意工夫し表現する活動</p> <p>(イ)「B鑑賞」において生徒が自分の見方や感じ方を大切にして能動的に対象を鑑賞し, 討論や批評し合うことなどを通して, 自分の中に新しい価値をつくりだしたり美術文化についての理解を深めたりする活動</p> <p>②専門学科等(総合学科や普通科のコース等を含む)において, 表現及び鑑賞の相互の関連を図り, 生徒の美術への関心や意欲等を基に発想や構想の能力, 創造的な技能, 鑑賞の能力を育成するための指導方法等の研究</p>

工 芸	<p>○工芸 I において、育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にし、「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図ることで、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成する指導方法等の研究</p> <p>(下記の(ア)(イ)を踏まえて、具体的な研究課題を設定すること)</p> <p>(ア)「A表現」において生徒が主体的に自己や社会的な視点に立って心豊かに発想し構想を練り、意図に応じて創意工夫して制作する活動</p> <p>(イ)「B鑑賞」において生徒が能動的に対象を鑑賞し、多様なものの見方を身に付け、討論や批評し合うことなどを通して、意味や価値をつくりだしたり工芸の伝統や文化についての理解を深めたりする活動</p>
書 道	<p>①「B鑑賞」の授業において、言語活動の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する指導方法の工夫改善についての研究</p> <p>②「A表現」において、「B鑑賞」と関連を図りながら主体的・創造的な書表現の構想と工夫を通して、生徒の関心・意欲を高める指導方法について研究</p>
外 国 語	<p>◇下記の①～④のいずれか一つを選択すること</p> <p>◇①～③については、「話すこと」における学習の状況等の把握に関する研究を含めること</p> <p>①「コミュニケーション英語基礎」, 「コミュニケーション英語 I」又は「コミュニケーション英語 II」, 或いはこれらの内の複数科目において、4技能の総合的なコミュニケーション能力を育成するための言語活動が中心となった英語で行うことを基本とした指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究</p> <p>②「英語表現 I」又は「英語表現 II」において、「話すこと」及び「書くこと」に関する技能を中心として、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を育成するための言語活動が中心となった英語で行うことを基本とした指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究</p> <p>③「英語会話」において、「聞くこと」及び「話すこと」に関する技能を中心として、身近な話題について会話したり海外での生活に必要な表現を使って会話したりする能力を育成するための言語活動が中心となった英語で行うことを基本とした指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究</p> <p>④4技能の総合的なコミュニケーション能力を育成するための「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標の設定及び指導方法と学習評価における活用方法に関する研究</p>
家 庭	<p>◇下記の①又は②の一つ又は両方を選択すること</p> <p>①社会の変化に対応した課題（家庭を築くことの重要性、食育の推進、子育て理解や高齢者の肯定的な理解などの少子高齢社会への対応、消費者問題等）について、各ライフステージの課題と関連付けて、生活の中で活用する視点を明確にした実践的・体験的な学習方法の工夫改善についての研究</p> <p>②実践的・体験的な学習を通して衣食住、家族、保育、消費、環境など生活の様々な事象を科学的に理解させ、関連する知識と技術を実際の生活上の意思決定や問題解決に生かす指導方法の研究</p>

情 報	○共通教科情報科の各科目における新学習指導要領の趣旨の実現を目指した学習指導の工夫・改善に関する実践研究
総合的な学習の時間	○協同的に学び合うことで、探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）の充実を実現する指導計画及び指導方法等の研究
特別活動	○ホームルーム活動「(3) 学業と進路」に示される諸内容、とりわけ「ア学ぶことと働くことの意義の理解」を中核とした活動と、学校行事「(5) 勤労生産・奉仕的行事」のうち「就業体験などの職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験」を中核とした行事との系統的な取組を軸とした、入学から卒業まで見通した特別活動の研究

【高等学校（専門教科）】

新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の背景
  - 新学習指導要領の実施に伴い，その趣旨を踏まえ，各教科の指導において，授業の工夫改善と，学習評価を適切に行うことが必要である。
  - また，新学習指導要領に基づく各教科の目標や内容に照らした生徒の学習の実現状況を把握し，今後の教育課程等の工夫改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的，内容等
 

本研究では，各教科において，特に教育課程の編成，指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い，その成果を全国に普及し，各学校での指導改善の参考に資する。さらに，新学習指導要領に基づく各教科の目標や内容に照らした生徒の学習の実現状況を把握するため，原則履修科目等で示された課題についても研究に取り組み，今後の教育課程等の改善に資する。
- ◆ 留意点
  - 実践研究に取り組む際には，下記の各教科の内容を中心に取り組むほか，応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。
  - 平成25年度に研究指定校として委嘱されている学校が，平成25年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は，それらの成果等を基に新たに平成26年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

農 業	<p>◇下記の①②の両方に取り組むものとする</p> <p>○将来の地域産業や地域農業を支える人材育成に資する農業科教育の在り方についての研究</p> <p>①座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫改善</p> <p>②原則履修科目「農業と環境」における学習状況の把握に資する調査研究</p>
工 業	<p>○新学習指導要領の趣旨等を実現するため，各科目の目標や内容に照らして，指導方法及び評価方法等の工夫改善と生徒の学習の実現状況について把握</p> <p>※生徒の学習の実現状況を把握する研究では「工業技術基礎」を含めること</p> <p>※新設された科目，新たに位置付けられた内容について，指導方法及び評価方法等の工夫改善を含めてもよい</p>
商 業	<p>○新学習指導要領の趣旨等を実現するための指導方法等の工夫改善と学習の実現状況の把握についての研究</p> <p>・研究の対象とする科目には，「ビジネス基礎」を含めること</p> <p>・研究の際には，その科目の内容の一部を重点化して行うこと</p>

水産	<p>◇下記の①②の両方に取り組むものとする</p> <p>○原則履修科目「水産海洋基礎」を通じて、地域の水産業・海洋関連産業を支える人材を育てる指導法等の研究</p> <p>①座学と実験・実習を関連付けた効果的な指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>②新学習指導要領に基づく科目の目標や内容に照らした生徒の学習実現状況の把握</p>
家庭	<p>○専門教科「家庭」の各科目における新学習指導要領の趣旨の実現状況の把握についての研究</p> <p>その際、以下の内容について取り組むこと</p> <p>①衣食住、ヒューマンサービスに関わる生活産業の各分野において、必要な知識と技術を確実に定着させる指導方法や評価方法の工夫</p> <p>②生活の質の向上を図るための課題解決に向けて、創造的な能力と実践的な能力を身に付けさせる指導方法や評価方法の工夫</p> <p>※上記科目に「生活産業基礎」を含めること</p>
看護	<p>○生徒の主体的な学習を通して思考力、判断力、表現力、技能を育成する指導方法等の工夫改善と学習の実現状況の把握についての研究</p> <p>※上記の研究を原則履修科目または新設科目において行うこととする</p>
情報	<p>○専門教科情報科の各科目における新学習指導要領の趣旨の実現状況の把握についての研究</p> <p>※上記科目に「情報産業と社会」を含めること</p>
福祉	<p>○新学習指導要領の趣旨等を実現するため、教科「福祉」における教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の改善に関する実践研究、並びに新学習指導要領に基づく各科目の目標や内容に照らした生徒の学習の実現状況を把握する研究</p> <p>※実現状況を把握する研究では「社会福祉基礎」を含めること</p>



### 公募課題3 学校全体で取り組む研究課題

新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

(1) 学校全体としての各教科等の連携による体系的な伝統文化に関する教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象校種：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校
- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の目的、内容等

学校の教育活動全体の取組により、児童生徒に伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を身に付けさせるため、各教科等における伝統的な言語文化、歌唱及び和楽器、行事食・郷土食、産業、和服の基本的な着装その他の伝統的な事項に係る指導の連携を図りつつ、体系的な取組による指導効果の向上、学校全体での定着を図る研究を行う。

(2) へき地教育における教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象校種：へき地の小学校又は中学校
- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の目的、内容等

全国的な教育水準の維持向上、新学習指導要領で掲げる指導内容等を効果的に指導するための参考となるよう、へき地学校として指定される学校において、①全国の他のへき地学校で共通する課題の改善、また、②児童生徒の学習状況、集団活動の状況等を踏まえた課題の改善、③へき地校ならではの教育資源を生かした特色ある教育活動の展開のための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善、④その他教育方法、内容の充実に向けた実践研究を行う。(①～④の一つ又は二つ以上のものに資する指導方法等の実践研究に取り組む。)

(3) グローバル社会や高度情報化社会などで活用される教科横断的な論理的思考や、それらを表現する力の育成を図るため、学校全体としての目標設定とそれに向けた各教科等における取組の連携を図るための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 対象校種：小学校、中学校、高等学校
- ◆ 研究期間：所要の期間
- ◆ 実践研究の目的、内容等

- グローバル社会や高度情報化社会をはじめとする様々な社会状況の中で活躍する上で必要な力の育成を目指し、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動での目標、指導を踏まえつつ、社会生活の中で活用される教科横断的な論理的思考や、それらを表現する力を育成する際に、どのような目標設定とするのか、そのためには教科等間でどのような連携等が行えるのか、どのような教育課程を編成するのか、目標実現状況の評価をどのように行うべきか等について実践研究を行う。

- 新設の特別な教科を設けず、学習指導要領に基づく教科等、授業時間数、指導内容による実践研究を行う。
- 複数の学校種（中等教育学校の前期及び後期課程を含む）で体系的に継続して同一の児童生徒を対象にパネル調査的な研究等を行う場合は、研究期間の設定に当たって一定の考慮を行う。
- 研究に際しては、以下の報告書等も参照すること。
  - ・「特定の課題に関する調査（論理的な思考）調査結果報告書 ～21世紀グローバル社会における論理的に思考する力の育成を目指して～」（平成25年3月、国立教育政策研究所教育課程研究センター）  
〔[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei\\_ronri/index.html](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei_ronri/index.html)〕
  - ・「平成24年度プロジェクト研究調査研究報告書 教育課程の編成に関する基礎的研究報告書5 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」（平成25年3月、国立教育政策研究所）  
〔<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/Houkokusho-5.pdf>〕

◆ 留意点

- 当該公募課題に関連する当研究所の調査研究等において、各研究指定校にデータ収集等の協力を依頼することがある。

(4) ESDを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

◆ 対象校種：小学校、中学校、高等学校

◆ 研究期間：2年間

◆ 実践研究の目的、内容等

- ESD（Education for Sustainable Development）は、環境的視点、経済的視点、社会・文化的視点から、より質の高い生活を次世代も含む全ての人々にもたらしることができる開発や発展を目指した教育であり、持続可能な未来や社会の構築のために行動できる人の育成を目的とする。
- 実践研究に取り組む際には、児童生徒の確実な理解、定着に向けて、特に下記の内容について、指導方法等の実践研究を行う。
  - ・ESDの理念に沿った学習内容について、学習指導要領を踏まえたESDの視点に立った体系的な指導と評価の推進、各教科等における指導内容の関連づけ及び総合的な学習の時間等での教育課程の編成・指導方法等の工夫改善
  - ・ESDの導入により、学校全体として児童生徒にどのような概念や資質・能力が身に付いたのか、どのように教員や学校が変わったのかなど、その成果と課題の検証
- 研究に際しては、以下の報告書等も参照すること。
  - ・「ESDリーフレット「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」（国立教育政策研究所教育課程研究センター）  
〔[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd\\_leaflet.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf)〕